

## 第3回鹿児島市多機能複合型スタジアム検討協議会

日時：令和5年12月15日（金）18時30分～20時00分

場所：SOHO鹿児島（鹿児島市役所みなと大通り別館6階）

### 会次第

- 1 開会
- 2 議事
  - (1) 事務局からの説明
  - (2) 意見交換
- 3 その他
- 4 閉会

### 議事概要

(会長)【これまでの経緯の振り返り】

7月25日に第1回協議会を開催した。

市から北ふ頭が候補地として提案され、様々な意見を委員の皆様からいただいた。その後白波スタジアム、北ふ頭を視察し、現状について課題や意見をいただいた。

10月18日に第2回協議会を開催した。

事務局から様々な調査の結果が説明され、配置図案も示された。県からの8項目の質問に対する回答として示したものでもあり、人流と物流の分離などの課題を委員の皆様からいただいた。

そういったものを踏まえて、第3回協議会の議事に入っていきたい。

(事務局説明)

資料に基づいて説明

18時47分～（意見交換）

(会長)

天文館の4団体から要望が出された。市が掲げるまちなかスタジアムの意味を考えると、中心市街地との回遊性、賑わいの創出という点を踏まえながらの整備が重要だと考えるが、事務局としてはどうか。

(事務局)

鹿児島市がスタジアムを整備する前提は、中心市街地の活性化。また、オール鹿児島を取組というのも常に視野に入れながら進めているところ。天文館からの要望書をいただき、早期実現を求めるとの内容だったが、我々としては多機能複合型スタジアムがもたらす波及

効果や中心市街地へ人の流れを作り出す集客装置としての役割に大きな期待を寄せていた  
だいたものと考えている。その想いを受けて早期実現に向けて取組を進めてまいりたい。

(B委員：関係団体)

天文館地区へは昔から主要な施設が集約されていた。それにより、様々な人が天文館へ集  
まってきていた。それが現状、郊外へ流れ出ている。その流れを受け、やはり中心部に文化  
的、スポーツ的な施設の充実が必要ではないかと考えていた。直近では、センテラスの中に  
図書館が出来た。それにより今まで天文館から足が遠のいていた方々も、また天文館へ足を  
運ぶきっかけに繋がった。スポーツ施設というものも、まちづくりに非常に期待できるもの  
だと考えている。そういった考えから、今回、要望書の提出につながった。

(H委員：学識経験)

天文館の方々からの声はとても重要。自家用車の方も天文館に駐車し、スタジアムまでの  
道のりを楽しむということも出来るのではないかと。天文館の更なる発展の起爆剤になるの  
ではないかと思う。他都市の事例を見ると、駐車場が少なく、駅などから徒歩で歩かせるよ  
うな環境でも円滑に運営していることが分かった。鹿児島市も回遊性を生み出し、ウォーカ  
ブルなまちづくりの取組を様々進めているが、スタジアムもそういったものになじむもの  
になるのではないかと感じる。

(G委員：関係団体)

ゾーニング案について、短期、中・長期などの記載があるが、その点についてどのように  
考えているか。

(事務局)

短期、中・長期に分けた考えは、県の利活用検討委員会で整理されているものなので、市  
からは申し上げにくいところ。スタジアムについては、中・長期でのイメージの部分に位置  
付けられているものと考えている。港湾関係者からの了承もいただいている中で、すぐに  
取り掛かれるものではない現状から考えると、短期ではなく、中・長期に位置づけられてい  
るものと考えている。

(会長)

鹿児島市長と奄美群島の首長との意見交換があったとあるが、どのような意見があった  
か。

(事務局)

奄美市で12市町の首長が集まる会議があり、北ふ頭での整備については、離島航路も関係があるので、意見交換をさせていただいた。首長からは、離島航路は生活航路であるため非常に重要。港湾機能は必ず確保していただきたいという意見や、今後、鹿児島市が取組を進める際は、情報共有をしっかりとさせていただきたい旨の意見があった。また、アクセスしやすい場所にスタジアムが出来れば、離島の子供たちへもいい影響があるのではないかと、などの意見もあったところである。

(C委員：関係団体)

港湾関係者である旅客船協会、港運協会の下承がない状況では、商工会議所としても下承できない。それを前提として、北ふ頭での整備について、旅客船協会、港運協会の両団体からどのようなコメントが来ているのか伺いたい。

(事務局)

現時点で北ふ頭での整備について下承をいただいているものではない。随時、意見交換を続けているところである。現時点では、大規模集客施設を作るということは反対というご意見や短時間に観客などが出入りするということに不安がある、などのご意見をいただいているところ。一方で賑わい自体に反対するところではない旨の意見も伺っているので、引き続き協議を続けていけるものと考えている。

(K委員：学識経験)

当初から三つの問題があると申し上げている。港湾関係者との関係性。港湾関係者が納得いただけるのかどうか。二つ目は、駐車場の問題。基本的には駐車場が少ないという計画であるが、事務局から他都市事例が示され、運営に支障がなさそうだと確認出来て、実現性は高いのかなと感じた。一方で、雨の日のシャトルバスなどの運用の検討や天文館を含めた回遊性の創出のためにバリアフリー化を促進する必要があると感じた。スタジアムへ至る道への魅力をアップすることでまち全体の相乗効果での活性化していく効果が期待できると思う。三つ目はベイエリアの魅力創出。桜島を見ながらゆっくりできるスペースは現状少ないところを考えると、北ふ頭は改めてポテンシャルの高い場所だと感じた。ただ、ペデストリアンデッキはコストの関係が気になる。その課題が整理できれば魅力が高まると思う。また人流と物流の交錯の危険性も低いのではないかと感じた。

(会長)

現段階で事務局からコストの面、駐車場の面などで説明できるものがあるか。

(事務局)

駐車場については、北ふ頭内での確保は難しい。天文館地区との連携やシャトルバスなどの取組を織り交ぜながら検討していく必要がある。コストについては、市議会等からの指摘もあり、注目度も高いところだが、計画の細かいところが煮詰まっていないため、現状、明確な数字は申し上げられないところ。先般の市議会では、スタジアム本体について、昨年数字を算出した時期と比べると8.7%ほど建築費指数がアップしているという内容を答弁したところ。

(L委員：関係団体)

明確な目的がある場合は、駐車場がなくても目的地へ歩いていくことに問題はないと思う。通常時に天文館との連携など考えながら、どのような施設とすべきか、しっかりと議論する必要がある。

(E委員：学生)

鹿児島ユナイテッドFCのホーム最終戦で12,000人近くの来場者を記録したことなどから改めて規模の大きなスタジアムの必要性を感じた。J2昇格を機にスタジアムに対する機運向上の方策についてはどう考えているか。

(事務局)

本市としても、鹿児島ユナイテッドFCのJ2昇格という機を逃さずにスタジアム整備への機運を高めていきたいと考えている。ただ、鹿児島市だけでは、高められないところもある。チームやサポーター、若い方からのご意見や応援をいただきながら、幅広く機運を盛り上げていく必要があると考えているので、情報発信の手法など教えていただければと思う。

(F委員：学生)

鹿児島ユナイテッドFCの昇格があったのに、友人の間でスタジアムも含め話題に上がる場面が少ない。SNSなども興味のある人しか情報を見ない。興味のない方やユナイテッドの試合結果しか見ない方などをもっと巻き込むような取組が必要。どうやったらスタジアムに足を運んでもらえるか検討してほしい。

(事務局)

本市が開設したInstagramなどもフォロワー数が伸び悩んでいる状況。ニュースなどは意外とスタジアムの話は取り上げられているが、情報発信につなげることが出来ないところである。様々なご意見をいただいて参考にしていきたい。

(会長)

市が、今年度、学生のワークショップを行った。非常にいい取組だったと思う。この取組を情報発信を議題として行ったり、様々な参加者を募ったりするなど広がりを持っていくことはいいのではないかと思う。

(C委員：関係団体)

他都市事例の資料から、駐車場が無くても、周辺の盛り上がりを作ることが出来るのであれば、それも重要なことなのではと思った。協議会としても他都市の先進事例の視察などが出来るといい。

(事務局)

職員の視察は予算の範囲内で行っているところである。来年度の取組なので、現段階で確約できるものではないが、各面から意見を聞いていく必要があると考えている。その際に様々な事例を見てもらうことが必要と考えている。今後の検討の参考とさせていただきたい。

(K委員：学識経験)

駐車場がないというデメリットがそれほどでもない今回の調査で分かった。それを逆手に取った取組としてシャトルバスの運行も考えられるが、その際は単に駅とスタジアムを結ぶだけでなく、鹿児島の名所を回りながら目的地へ向かうなど、短所を長所へもっていくような取組が必要と考える。歩く楽しみをどうやってもっと創出していくかの検討を進めていけば、より魅力的な場所になるだろうと考える。ベイエリアが明るくなれば様々な相乗効果が期待できる。今後の展開に期待したい。

(H委員：学識経験)

学生の中で、スポーツ産業という科目で、鹿児島ユナイテッドFCから協力をいただき、実際の試合の運営ボランティアに実習として参加し、そこでグルメや地域性について知ったり、スポーツエンタメ産業の理解が進んだりすることで今まで知らなかったけどもサッカー観戦に興味を持った、スタジアムについても知ったという学生がいる。広報していくということも大事だが、鹿児島ユナイテッドFCは教育機関と共に多くの地域連携の取組を進めてくれている。そういった取組は学校教育の中では非常に親和性のあるもの。これを発信していくことはいい広報につながると思う。

また、スタジアム農園の取組などは非常にいい参考になる。漁業との連携など鹿児島で活用できるものも多い。鹿児島ユナイテッドFCは、SDGsの取組として清掃活動の後で錦江湾横断遠泳を行っている。そういったものの周知も大事だと考える。

選挙が来年度あるが、スタジアムの協議が滞ることを危惧している。産官学民の前向きな

スタジアムへの機運の醸成は積極的にスピーディーに行っていかなければならない。Jリーグライセンスもスタジアム整備を前提に例外規定を適用されているため、後に引き下がることはできない状況なのではないかと考えている。行政の信頼性を失うことはできない。今回の候補地以上に一年を通じて、稼働率や賑わい創出をできる場所が他になかなか見つからないのではとまっているので、県と市がもっと連携し、まちづくりや発展に向けてブランディングの面でも他都市に引けを取らないように頑張ってもらいたい。

鹿児島ユナイテッドFCのJ2昇格に合わせて多くの関係者がこれまで以上に増えると思う。例えばユナイテッドの新ユニフォームがSNSで話題になるなど、鹿児島の地域資源や地域特性を一気に発信できる、SNSやサイバー空間とも非常に相性のいいものがプロスポーツやエンタメだと考えている。ぜひこの波に乗ってもらいたい。

そういう意味でも他都市の事例や状況をしっかり調査することも大事だと考える。

(事務局)

教育に関しては、鹿児島ユナイテッドFCも様々取り組んでもらっているところである。H委員：学識経験のおっしゃる通り、探求学習はプロスポーツと非常になじみそうである。スタジアムを素材にした学校との連携もあり、プロスポーツチームである鹿児島ユナイテッドFCと市民が交流することで鹿児島ユナイテッドFCをもっと応援してもらおうきっかけになるのではないかなと思ったところである。

他都市の事例を見ていただきたい思いは強く持っている。自分もあまり他都市のスタジアムは見たことがなかったが、視察を何度か通して、実際、試合が行われている風景を見るとスポーツの持つ熱量は改めてすごいものなんだなと感じたところである。ぜひ協議会の委員の皆様にもそういったものを見てもらう機会があればいいのかなと思う。

(会長)

ユナイテッドが教育的な効果を創出するために地域と関わっていることを確認できた。

鹿児島市も部活動の地域移行が進められている。ほかの競技団体も地域との連携の必要性については十分に認識している。様々な競技団体とともに機運を高めていければいいと思う。

#### ・事務局から欠席委員の意見の紹介・回答

(J委員：専門家)

参考資料2のNo.8における県議会での答弁は、北ふ頭でのスタジアム整備を念頭におかれた質疑なのでしょうか？(そうではないと思うが)それとも他の事案を念頭におかれた県議会での答弁を活用しているものか。

→現在、県の検討委員会において、本港区エリアの利活用について検討がなされているところであるが、当該、県議会答弁については、北ふ頭を含む本港区エリア全体を指して、

「検討の結果、港湾計画の改訂等が必要な場合には、港湾計画に関する国の基本方針なども踏まえ、手続きを進めることとなる」と発言されたものである。

参考資料2にて鹿児島市より回答をなされたことへの鹿児島県からの更問いなど今後予想される事をご教示いただきたい。

→県からは、「稼働率の内容については更なる検討が必要であり、その他の項目についても未だ検討中であるため早急の回答が必要」との返答をいただいている。

また、来年度以降の協議会としてのアクションプランの考えを示していただけたら幸い。

- ・新年度の取組になるので、確かなことは申し上げられない。
- ・今後、県の検討委員会におけるゾーニングや県をはじめとする関係者との協議の状況を見ていかなくてはならない。
- ・新年度予算に向けて検討していくことになるが、取組にあたっては、様々なやり方で各面からのご意見を聞いていく必要がある。

鹿児島市とされては、今後も協議会を活用頂きながら、サッカー好きのためだけではなく、市の中心市街地活性化や回遊性向上といった地域課題解決にもスタジアム整備の意義がある事を対外的にも示していくことが大切だと考える。

(I 委員：関係団体)

・鹿児島ユナイテッドFCがJ2昇格を果たしました。私は当日、スタジアムDJとしてスタジアムでその瞬間に立ち合ったが、12,000人のあの賑わいは鹿児島を元気に、活性化するというのを改めて実感いたしました。また、最終戦は鹿児島市内で行われたパブリックビューイングにも1,000人を超える人が集まった。スポーツは人々を一つにし、一体感をもたらしてくれるものだとこの昇格をもって改めて感じた。子供たちの夢にもなったと思う。

鹿児島の将来にこのスタジアムがきっと明るい未来をもたらしてくれると感じる。その鹿児島の未来を積極的に作っていてもいいのではないかな。

・選手へのインタビューをしていて感じるのは、選手たちはJ2ではなくその先のJ1を見てトレーニングをしている。J2定着ではなく、J1を目指すに当たり、スピードをもって取り組むことは県民市民の機運を高めるためにも大切なのではないかなと思う。

(B 委員：関係団体)

まだ先のことだが、今後1万人規模の集客が恒常的にあつて、それを天文館地区で受け入れるとなると、想定外のことが様々起こると思う。そういった事態が起こらないように早いうちから協議を重ねることが重要。

(事務局)

人が集まるということはいい面もありながら、街に負荷のかかる面もあると考えている。最たる例は渋滞問題。それ以外にも、想定しえないことが様々起こると思う。それについては天文館の方々などのご意見をいただきながら、他部局と連携して解決してまいりたいと考えているので、今後とも協議を続けていきたい。

(事務局)

サマーナイト花火大会などは、回数を重ねるうちに来場者の方々がいつ会場に行けばいいか、帰宅にどれほどかかるのか、など様々学んできているところ。おはら祭も同様。J2だとアウェイサポーターの平均人数が多くなる見込みがある。そういった方々への対応やおもてなしの方策など協議をしていきたい。

(K委員：学識経験)

ペDESTリアンデッキは避難をする上で非常に有効。デッキの壁に広告などで活用することで広告収入が見込めるほか、イベントを行ったり、より魅力があるスペースになるものと思う。

(G委員：関係団体)

SAGAアリーナの事例でいうとアリーナが完成し、チームの昇格もあり、来場者数が非常に増えたという事例がある。鹿児島も来場者が増えていく流れがあるのではないかとと思う。鳥栖のスタジアムも駐車場が課題なので調査してみてもいい。北海道のエスコンフィールドも300万人の来場者のうち、3分の1は野球と関係ない来場があったようなので参考にしていこう。

(E委員：学生)

ドルフィンポート跡地に総合体育館建設の計画が進められているが、総合体育館へ流れる人とスタジアムへ流れる人を上手くつなぎ合わせる事が出来れば、スタジアムへの来場者を増やすことも出来るのではないかと。県と連携してもらいたい。

協議会は、行政へ市民の意見を伝える場として非常に重要だと思うので、ゾーニング案に関わらず継続してもらいたい。

(F委員：学生)

自分が小さいとき鹿児島ユナイテッドFCの選手と交流する機会があった。そういった機会は非常に貴重な体験になると思うので今後も継続してもらいたい。中学校や高校とも連携してスタジアムの普及を進めてもらいたい。協議会やワークショップの取組も様々な意見を聴取する場として継続して行ってもらいたい。

(L委員：関係団体)

現時点で整備がどのくらいにできるのか。事務局の見込みは。

(事務局)

現状はできるだけ早くとしか申し上げられない。港湾関係者のご理解がなければ、本市としても一歩たりとも進めないと考えている。そこがクリアできても港湾管理者である県の意向も関わってくる。本市としては何とか進めたいという思いである。